

FAL 秋葉原試聴室訪問記(2018.11.17)

1. はじめに

前回の9月7日に引き続き、再び上京を機会に [FALの試聴室](#) に寄ってきました。今回は、当方で使用中のアクセサリ類を持参し、試聴室のシステムでテストさせていただきました。

2. FAL 試聴室における試聴の経過

持参したアクセサリは、自宅のシステムで大きな効果を認めているインフラノイズ社の DACU-500 と UACU-700 です。

試聴したスピーカーは次の2機種です。

Supreme S C60e ブックシェルフ型

Supreme C90 EXW

持参した音源は、前回も持参した MQA-CD1 枚とさらに CD1 枚およびこれらのリッピング音源などです。



盤再生の入力系は、パイオニアの CD プレイヤーPD10 をトランスポートとして使用し、日本オーディオの DAC である DA-500 経由で、駆動は 300B シングルの AM-M1 です。

PC オーディオについては、送り出しは PC で AudioGate を使用し、USB-DAC は KORG の初期版です。

最初に KORG の DAC に UACU-700 を装着して FAL 試聴室のデモ用の CD からリッピングした WAV 音源を聴きましたが、スケール感や低音の分解能など申し分ありません。

次に MQA-CD のバックハウスのブラームスの2番とベートーベンのチェロソナタ集の CD からリッピングした WAV 音源を聴くことから始めましたが、とてもリッピング WAV 音源とは思えないほど、ステージ感の広がりや奥行き感があり、オーケストラの音の混濁もなく、チェロやピアノの質感の表現も十分です。

ジャクリーヌ・デュ・プレのドボルザークのチェロ協奏曲もデュ・プレのアグレッシブともいえるようなボウイングの力強さに引き込まれてしまいます。

これらはリップングに際して、外付け CD ドライブの方にも UACU-700 を装着していますので、その効果も合わさっているものと推察されます。

次にベートーベンのチェロソナタ集の CD をパイオニアの CD プレイヤー PD10 をトランスポートとして使用し、日本オーディオの DAC である DA-500 経由で再生し、DAC の前に DACU-500 を装着して聴いてみましたが、DAC の性能が優れているせいか、リップング WAV 音源の再生に引けをとっていません。

最後に Supreme S C60e ブックシェルフ型を少しだけ聴かせていただきましたが、小型ながらステージ感は十分で、ミニオーケストラが展開しているようでした。

3. まとめ

FAL 試聴室のシステムでも DACU-500 と UACU-700 の大きな効果を認めました。

以上